

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】平成 27 年 6 月 25 日 (2015.6.25)

【公開番号】特開 2014-224026 (P2014-224026A)

【公開日】平成 26 年 12 月 4 日 (2014.12.4)

【年通号数】公開・登録公報 2014-066

【出願番号】特願 2013-135342 (P2013-135342)

【国際特許分類】

C 0 3 B 5/193 (2006.01)

C 0 3 C 3/062 (2006.01)

C 0 3 C 3/064 (2006.01)

C 0 3 C 3/066 (2006.01)

C 0 3 C 3/16 (2006.01)

C 0 3 C 3/17 (2006.01)

C 0 3 C 3/19 (2006.01)

C 0 3 C 3/21 (2006.01)

【 F I 】

C 0 3 B 5/193

C 0 3 C 3/062

C 0 3 C 3/064

C 0 3 C 3/066

C 0 3 C 3/16

C 0 3 C 3/17

C 0 3 C 3/19

C 0 3 C 3/21

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 5 月 12 日 (2015.5.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

屈折率  $n_d$  が 1.75 以上であり、下記式 (1) に示す  $OH$  の値が、下記式 (2) で表される関係を満足する光学ガラス。

$$OH = - [ \ln ( B / A ) ] / t \quad \cdots (1)$$

$$OH = 181.39 \times n_d^{-3} - 325.75 \times n_d^{-2} + 194.85 \times n_d^{-1} - 38.1 \quad \cdots (2)$$

〔式 (1) 中、 $t$  は外部透過率の測定に用いる前記ガラスの厚み (mm) を表し、 $A$  は前記ガラスに対してその厚み方向と平行に光を入射した際の波長 2500 nm における外部透過率 (%) を表し、 $B$  は前記ガラスに対してその厚み方向と平行に光を入射した際の波長 2900 nm における外部透過率 (%) を表す。また、 $\ln$  は自然対数である。式 (2) 中、 $n_d$  は、前記ガラスの屈折率を表す。〕

【請求項 2】

貴金属の含有量が、4 ppm 以下である請求項 1 に記載の光学ガラス。

【請求項 3】

前記ガラス成分として、 $P_2O_5$  を含む請求項 1 または 2 に記載の光学ガラス。

## 【請求項 4】

モル%表示における、前記  $P_2O_5$  の含有量が、 $B_2O_3$  の含有量よりも大きい、請求項 3 に記載の光学ガラス。

## 【請求項 5】

前記  $Nb_2O_5$  の含有量が 5 モル% 以上である、請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の光学ガラス。

## 【請求項 6】

前記  $Nb_2O_5$  の含有量が 8 モル% 以上である、請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載の光学ガラス。

## 【請求項 7】

$T_g$  が 541 以上である、請求項 1 ～ 6 のいずれかに記載の光学ガラス。

## 【請求項 8】

請求項 1 ～ 7 のいずれかに記載の光学ガラスからなるプレス成形用ガラス素材。

## 【請求項 9】

請求項 1 ～ 7 のいずれかに記載の光学ガラスからなる光学素子。

## 【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0190

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0190】

【表 3】

表 3

	酸化物組成							
	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
屈折率 $n_d$	1.81	1.87	1.92	1.93	1.95	2.02	2.11	2.16
アッベ数 $v_d$	22.5	21.8	20.9	19.2	18.0	17.8	17.0	16.2
ガラス転移点 $T_g(^{\circ}C)$	541	604	666	652	637	601	561	558